

呑川のアカミミガメ

前回の「呑川レポート」で、今まで上流にまでは来ていなかった「ミシシッピーアカミミガメ」が、現れるようになったと報告しました。

これについては、何人もの方から感想や質問をいただきましたので、ご紹介とご返事をしたいと思います。

「多摩川」が「タマゾン川」と呼ばれて、TV番組でおなじみの川崎河川漁協の山崎さんからもメールをいただきました。

----- (以下 山崎 充哲 さんからのメール) -----

こんばんは。

呑川には本来であれば、日本産のカメがいてしかるべきですが、現状での生息は厳しいでしょう。

ミシシッピーアカミミガメは繁殖していないのがせめてもの救いです。

とは言うものの、繁殖していないにも関わらず、増え続けている現状があります。

常に遺棄されると言うことで、増え続けていると思われま。

さらにアカミミガメの寿命は非常に長く、30年は当たり前です。

ドンドン遺棄されたカメが30年続けば、とんでもない数になるでしょう。

集中豪雨でカメが海まで流されると、死ぬ個体が相当数出るでしょう。

いままではそうやってリセットがかかってきたのだと思います。

今後において、自然を取り戻す工法で川作りを行うのであれば、ミシシッピーアカミミガメの爆発的な繁殖を向かえるかも知れません。

ミシシッピーアカミミガメは外来種ですので、遠くない将来に呑川の自然再生に支障をきたすことになるでしょう。

ミシシッピーアカミミガメはガーのように殺さずに捕獲し、おさかなポストで里親を見つきたいと思います。

たとえ外来種であっても無駄な命などあるわけがなく、人に無理矢理連れてこられた命を最後まで育て続けたいと思います。

時期を見てミシシッピーアカミミガメ捕獲作戦を実行します。

皆さんもガーと会わせてミシシッピーアカミミガメも観察してください。

ガーは出現し次第ご連絡下さい。

殺すことなく捕獲して、おさかなポストのイケスで里親さんを捜します。

よろしくお願ひします。

おさかなポスト

川崎河川漁業協同組合

山崎 090-3209-1390

----- (以上 山崎 充哲 さんからのメール) -----

山崎さんは、「おさかなポスト」の仕事もされており、捨てて殺すのではなく、やむを得なく手放すので

あれば、「おさかなポスト」で受け取り、自分で育てたいという「里親」が見つかるまで預かることをされています。

「呑川」のアカミミガメがどのように進展するか判りませんが、山崎さんの大きな力をお借りして、良い方向に進められればと思います。

「呑川」の「ミシシippアカミミガメ」について、こんな質問もいただきました。

「最上流まで行き着いたカメは、ゴムのカーテンを越えて進むのか？」

じっさい、「工大橋」の最上流部でも、カメをよく見かけるようになりました。



ここは「工大橋」・・・「高度処理水」の吹き出し口カーテンです。
矢印の先にカメがいるのが見えるでしょうか・・・



しばらく様子を見たのですが、ほとんど動かず、さらに上流に向かって進んでゴムのカーテンをくぐる気配は見られませんでした。

しかし、もっと根気よく、長時間見続けていれば、カーテンを越えて進んだでしょうか・・・？



「工大橋」のゴムのカーテンから「高度処理水」が流れ出す勢いは、激流と言うほど、ものすごいものがあります。
これでは、カメはきっと流されてしまい、これを乗り越えてカーテンの中に突き進むのは難しいような気がします。



これは、池上地域のカメですが、こんな風にのんびりプカプカ泳いでいることは上流では難しく、浮いて泳ごうとしたとたん、激流に流されてしまうでしょう。

さて「アリゲーターガー」が見つかったときのように、「カメ」も見つかれば人気になります。

「呑川の会」の可児さんのお孫さんも、「島畑橋」のそばでカメを見つけて、いつまでも、いつまでも見続けていて、本当に夢中になったそうです。子どもたちにとっても、大人にとっても、「生きもの」がいるというのは、「呑川」の大きな魅力です。

そのカメが、上流では、数日間、見つからないことがありました。どうしたのだろう・・・?とあって、時間帯を変えて、夕闇迫る午後7時ころ見てみました。



すると「境橋」近くに、夕やみの陰に潜むように、ゆっくりと歩むカメが見つかりました。カメの甲羅も茶色っぽい黒ですので、見落とすところでした。



「ミシシippiaアカミミガメ」は夜行性ではないので、夜は活発には動き回らないと思います。

ただ、なかなか見つからないと、うっかり「今日は、いない」などと言いがちですが、「今日は見つけれなかった・・・」と言うべきなのでしょう。

しかし、呑川の上流でカメをよく見かけるようになったと言っても、池上付近からすれば、まだとても少ないと言えるでしょう。



池上の「養源寺橋」付近では、このように5匹、6匹いるのは、ざらで、10匹以上が連なって並んでいることも、しばしばです。



「池上橋」を越えて上流に來ると、「カメ」はすこし少なくなります。
ここは、「仲之橋」橋脚の直下ですが、少なくなるといえ、こんな風に集団でいるのをよく見かけます。

それが「道々橋」を越えた上流部では、いつも1匹の状態で見られません。
ですから、まだ上流にはそんなに多くはいないと思われます。

今後どうなるかは予断を許しません。

カメの遡上は、「道々橋」下流の「下水道横断堰」の撤去状況によるものと思われるので、その状況を見てみましょう。



ここは「道々橋」下流の、下水道管横断部分ですが、すでに「堰」はまったく無くなっています。

ただ「半川閉め切り」状態（手前部分）ですので、水は左岸側半分しか流れません。（河川の工事は、全てを締め切ると洪水が起きますので、川の半分ずつ締め切って、工事が行われます。）

現在は金網越しで見にくいのですが、右岸側は土のうで締め切られています。



さらにていねいに見ると、左岸側半分の、水が流れている部分も、土砂が半分埋まり、実際には川幅の1/4しか水は流れていません。

この土砂は不明ですが、従来から河床にあった土砂とも考えられますが、地盤改良工事で、河床にセメントを注入したり、薬剤を注入するとき、その注入分の体積の土砂が地中から押し出されてきたものかもしれません。

(その5工事の頃は、私が見ていると、現場事業者の方がよく説明をしてくださったのですが、最近は何にか閉鎖的で、聞いても「?・・・」と口ごもり、説明をしてくれません。)

いずれにしても、現在は「その9工事」「その10工事」の2区間で、「半川閉め切り」の状態にあり、生きものたちが充分遡上できる状態にありません。工事が終わると思われるこの秋以降に、さらに良い変化が起きることを期待しています。

「香川をきれいにするための 大田区との意見交換会」

2011/6/30 (木) 10:00~12:00

大田区役所 202号室

「香川ネット」が大田区の関係部署と行う、年2回の意見交換会です。

———photo essay by———

高橋 光夫